
Lascia chio pianga

榛奈 伶奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

L a s c i a c h i o p i a n g a

【Nコード】

N 3 3 3 5 B

【作者名】

榛奈 伶奈

【あらすじ】

新米の巫女として赴任地の神殿に赴いた巫女。やがて、彼女は歴史の大きなうねりの中に巻き込まれていく。一人の巫女の思いと運命がさまざまな模様を織り成していく

プロローグ

今にも崩れてしまいそうな建物。それは、廃墟という言葉がぴったりな感じがするものであった。

それが、ぬけるような青空の下にある。風は優しくそよぎ、草を揺らしていた。そんな穏やかな光景にまるで似合わない建物。その誰もいないような中を風だけが通りすぎていた。

カッン――。

そうやって風が通りすぎた時に建物の一部が壊れたのだろう。乾いた音をたてて、壁の残骸がコロコロと転がっている。それは、ある一点でピタリと止まってもいた。

「う、うん……」

コロコロと転んだかけらは指先にふれるかふれないか。しかし、それが目覚めるきっかけとでもなったかのように、指先はゆっくりと動いている。しかし、こんな廃墟としかいいようない場所に人が倒れているというのも信じ難いのだが、それは幻ではない。

「う、うん……」

髪をかすかに揺らしていく風。カラカラと落ちてくるかけらが指先にあたる刺激。そして、元は天井であつたはずのものがなくなっているために、さんさんと差込んでくる日の光。

それらの力が大きかったのだろう。倒れていた人影はゆっくりと腕を動かし、その瞳をひらいているのだった。

「わ、わたし……生きていたの？」

疲れたような、呆然とした声がその口からもれていた。

その身にまよっているのはあちこちが汚れ、綻びたところもあるが巫女の装束。そして、首からかけられている水晶は祈り紐でもある口ザリオ。この人物が巫女であるのは間違いない。たとえ髪はボサボサになり、顔や手には擦り傷があるとしてもだ。そして彼女は、まるで何かを探すようにあたりをみているのだった。

「どうして、こんなことに……」

力なく呟かれる声。

彼女は自分のいる場所がどうみても廃墟としかいいようがないことに、思わず怯えたような顔をしているのだった。そんな彼女の視線の先にあるものは崩れかけてはいるが、聖壇のようにもみえる。

ということは、ここは神殿であつたということがいえるのだろうか。だが、神殿という人々の精神的な拠り所がここまで荒れ果てるのも信じがたいことではある。

『シンシア、逃げるんだ！』

自分を気遣うような男の声が聞こえたような気がして、彼女は慌ててあたりを見回していた。だが、その場にいるのは彼女一人だけなのはすぐにわかることだった。そのことがわかった途端、彼女は座り込むと、あたりも憚らず大声をあげて泣いているのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3335b/>

Lascia chio pianga

2010年10月27日14時05分発行